

第4回

ブータンはなぜ、輝いているのか

— 今、アジアの桃源郷で考える —

講師名 日本ブータン友好協会幹事
受講日 平成24年9月1日
場 所 日高市生涯学習センター
参加者 合 計 104名
受講者数 68名
都度受講者 36名

白井 一 (しらい はじめ)氏



講師プロフィール

ブータン国王・王妃歓迎セッション公認記録カメラマン
株式会社テラグリーン代表取締役、日本ブータン友好協会幹事、
NPO 法人国際建設機械専門家協議会代表理事、1969年工学院大学工学部機械工学科卒業後、2年間フランス・グルノーブルとデイジョン大学留学を経て工学院大学機械工学専攻科を修了(プラズマ溶接の研究) 大手建設機械整備会社で、建機・溶接機の開発に携わり、アフリカ・米国に駐在、建機ディーラー・大手顧客への技術指導、技術移転のほか、海外技術研修協会(AOTS)・独立行政法人国際協力機構(JICA)の技術研修講師、政府開発援助(ODA)案件の技術調査等130ヶ国以上で仕事をしてきた。ブータンでは、国土交通省支援のもと「自分の歩く道を自分で作る」自立支援のための道路整備技術支援プロジェクトをプロジェクトマネージャーとして務め、5年間で初期計画通り完了させた。

はじめに

ブータン国王歓迎レセプション公認記録カメラマンとしての実績をおわかりいただくためアルバムをお配りします。その折の国王のスピーチでは、ブータンの至る所にいる日本の技術者・協力隊にその支援のお礼が述べられています。またブータン国王が裸足で子供たちとサッカーを楽しんでいるポスターを見ていただくと、国民一人ひとりを幸せにするのが自分の目的であり義務であるとして、実行に移されている心優しい国王の姿がわかると思います。来日の折、国会で国王が講演の中で日本はブータンの先生であり、大震災があっても必ず復興するだろうと語られています。その言葉は我々に日本が素晴らしい国であると改めて思い返すこととなりました。ブータンの人に将来どういう国に住みたいか聞きますと、10人のうち7~8人が日本のような国に住みたい。あこがれであり、夢であると答えます。なぜ、ブータンの人が日本を慕っているか、本日は一つ一つご紹介します。

講義のあらすじ

1. ブータンは最後の桃源郷か

ブータンのGNH(Gross National Happiness)思想の背景はチベット仏教の教えです。日本の仏教もブータンの仏教も同じ歴史を持っています。

ブータンには20の県がありますが、自動車が走れる道路のない県がいくつもあります。川の脇にのみ道路が作られています。ブータンの人々の90%が農家です。各家庭では織り機で布をきれいに織っており、自給自足の世界です。ブータンの風景

を見ると菜の花が咲いており、丘の上に家があるのどかで幸せそうですが山の中腹に道路があるだけで、各家庭へ行くのは歩行のみです。それほど豊かでない土地を有効に活用しているのが、桃源郷と言われるゆえんと思われまます。

2. ユニークな GHN 思想はなぜ生まれた

(1) 地政学的な理由

なぜ、開発途上国は貧しいままなのか、ポール・コーリア教授が4つの項目をまとめています。

①資源があると争いが起こり、なかなか豊かになれない。②問題を抱える大きな隣国(中国、インド)に囲まれている。③内戦の火種をかかえる地域(インド、パキスタン)に近い。④政治が安定していない。そのような地政学的な典型がブータンであると思えます。

1963年に初めて自動車道路ができました。その背景は以下の通りです。1947年インドが独立し、その後、1959年に中国がチベットに侵攻しました。インドが中国の侵攻を防止するため、軍事道路(インド北東部アルナーチャル州等へ軍隊を送るための道路)が必要であったからです。

ブータンは1961年に第1次5か年計画を作成し、最初の自動車用道路が出来ましたが、ブータン国民のためではありませんでした。そのため国王は国民の幸せのための開発が必要と考え、第4代国王の頭にひらめいたのがGNH思想です。

世界の僻地の大部分に文化をもたらすのは、多くの場合、侵略し軍隊を送るための道路、飛行場建設です。近代化、開発は国と国との紛争にかかわるといふ桃源郷の厳しい現実があります。

NPOが現地の道路局と下請け民間企業を指導しますが、働いている人はインド人です。ブータンには道路を作る固有の技術がないので、インド技術により今日まで発展してきました。しかしインドの物を作る思想、管理の仕方と敬虔な仏教を信じるブータンの考えとは一致しません。この差はヒンズー教と仏教の違いだけではないと思えます。

ブータンを上空から眺めますと、ヒマラヤ連峰が

輝いています。山ばかりのところに禿げ上がっている場所がありますがここに人が住み、標高4000m以上ではヤクが放牧されています。多くの国民は1000~6000mで生活しています。山の上の家から車の道路まで早いところで半日、中には3日から5日かかることもあります。また、段々畑が見られますが、有効面積を広げるため、土地をめいっぱい使い田んぼのあぜ道を作り、丁寧な棚田を作っている様子がわかります。

(2) チベット仏教が背景になっている

常に仏教とともにあるブータンのたたずまいは大変美しいものです。どの家庭にも大きな仏壇があり、毎日何度もお祈りをします。昼食は手で握って、くずれないようにして赤いご飯を食します。首都ティンプーのダルシン(経文旗)は風下にいる人に幸せを送るために経文が旗に書いてあります。ブータンの家族に1人はお坊さんです。お坊さんはある時期から結婚、恋愛という人生の喜びを断ち切り、他人の幸せを祈るだけの生活に入ります。日本とブータンの仏教の違いがここににあります。ティンプー市内のツルテン(仏教の記念碑)のマニ車は、1回まわすと、お経を読んだこととされ、1回まわすごとに人の幸せを祈ることになります。マニ車を水車でまわす風景もよく見られます。水を利用して祈る、これもブータンの日常です。

ブータンの典型的な建物を見渡すと、王様の建物は随分小さくつつまじやかな居住であることがわかります。最近、山の上に大きな仏像が出来ました。シンガポールの華僑が寄付してできたものです。日本では非難されるかもしれませんが、今後、観光立脚のためには悪いことばかりとは言えません。この大仏を訪問するため立派な道路ができました。道路を作ることがブータン国民の悲願です。山の上の人たち、奥地の人にも明るい未来の希望を与えます。またショッピングモールや車のディーラー等日本の地方に負けない立派な建物が出来ています。発展の速さを見ると、日本の東京オリンピック当時と同じ状況にあるように思えます。

10年先のブータンはどうなっているか、日本と同じ姿に発展するのではないのでしょうか。パロという所はブータンで唯一広い平野がある場所です。最近パロの飛行場の滑走路を打ち直し、周りが大きく変わりました。空港の近くパロチュー川が氾濫した際、アジア銀行から借款し補修工事を行いました。10年程前は修理用機械のヒカレーターは全国数台しかありませんでしたが、今は飛行場周りだけで3、4台動いています。ガソリンを多量に消費する潤沢な金を必要とする計画が進んでいることに驚きます。

(3) そもそもブータンとのお付き合い

1964年にJICAの支援者としてブータンに入ったダショー西岡さんが、日本から種と苗を運び野菜の品種改良をしました。また米の植え方も指導するなど、食生活を豊かにする努力をしました。通常2年で交代するのがJICAの支援ですが、西岡さんは国の要請で28年にわたり継続指導し食生活の改善に大きな効果をあげました。さらに堀や堤を作り、パロ谷全体の総合開発プロジェクトを進めました。そのプロジェクトに私は1990年からかかわっています。西岡さんが設立した農業機械センターや執務室を最近見ましたが、きれいに保たれていました。本当に敬意を払われているということがわかります。

私は日本で建設現場のキャタピラーブルドーザー整備を担当していた経験を生かし、ブータンで建設機械の整備をしたのが援助活動をするきっかけでした。まず初めに建設機械の維持管理をし、機械稼働率80%以上を目標としました。そのため移動機械整備工作車を収めました。最近ブータンで1990年に収められた機械が20年も使われているのを見ました。奇跡に近いことです。古い銘板はメーカーの誇りです。使うブータン人もえらいが作った日本人もえらい。

3. GNH 思想に基づく人造り工業大学

建設計画支援

足利工業大学学長で風車発電が専門の牛山さんがブータンの山の上の家にも電気を灯そうと、ブータン機械工学科の設立に着手しました。ブータン大学に機械工学科のモデルプランを提示し、アカデミックプログラムを確実に進めるため農業機械センターの現地人所長のアイデアを取り入れました。

私の仕事に戻りますが、国交省の資金援助によるブータン道路整備支援計画が5年続きました。仕上げ車(フィニッシャー)のオペレーター指導からスタートし、修理指導、管理者教育まで行いました。また舗装道路建設技術を指導しました。1年目は日本から送られてきた機械の整備を行い、2年目はガス式バーナーの使い方を指導し、3年目に平らに仕上げるための定規の使用法(材木の利用)を指導しました。道具一本を正しく使えるかがプロとアマチュアの違いです。アマチュアはきれいに仕上げるという段取りを省きます。最終年度に本格的舗装道路の施工を実施しました。現在はでこぼこのない立派な道路が出来上がっています。その結果パロからティンブーまでの25kmを従来2.5時間かかったものが50分で行けるようになりました。機械使用に際して5S(整理、整頓、清潔、清掃、しつけ)の精神を植え付けました。昨年訪問した時はその成果がしっかりと認められました。

さらには道路予算不足を補うため、フィニッシャーの高価なゴムパッドの代わりに鉄のアングルを工夫して自作のキャタピラーを作りあげています。

自分で考え工夫し目的を遂行する人を日本でも求めています。日本の研修を受けたブータンの監督者が指導者としてその実績を上げています。

使い放しから管理をすることに変わったことが成果です。日本の贈り物を大切に良く使ってくれたことは喜ばしいことです。

《Q&A》

Q1: ブータンは幸せの国であるが同時にマイナスの面もあると思います。1 か月前朝日新聞のオピニオンに幸せの国の悩みは若者の欲望、特に自動車の問題が挙げられていました。ブータンには格差があると首相自らが言われています。農業国であるがインドからの農作物輸入がされている。このようなグローバリズムのなかでブータンの将来像をどう考えますか

A1: 多くの方々がいろいろ心配しています。田舎に仕事がないので都会へ。今回私が入ったトップジョーカ(ブータンのチベット)にブータン唯一の大学があります。500 人の学生がいますが、ほとんどが都会に出て行きます。人間の欲望は無理に止められません。都会を目指す人が10人のうち5-6人いるでしょう。10人に1-2人のお坊さんとなる人もいます。この人たちで次の世界を作ることがブータンのこれからと考えます。西洋の近代化とブータンのGNHを融合したものが今後、出来上がると思います。ただし、考え方は多様であって良いと思います。

Q2: 90%が親日家と聞いてうれしく思います。西岡さんの功績とか最初に日本人が行ったということの他に親日家となる理由はありますか

A2: 個人にはいやな日本人と美しい日本人が同居しています。私はたまたま檀家で寺へ行って掃除をした経験があります(日本の方も多くは経験があると思いますがブータンをはるかにその比率が高い)ので、ブータンへ行っても違和感なく仏を敬いました。ブータンのどの家にも立派な仏壇があります。人々が徳を継ぎます。誰かが手を差し伸べて良くしなければならぬという教育がなされ、徳の精神が広がっていきました。

Q3: 大型のフィニッシャーを日本からブータンへ運ぶ手段は海路、陸路、空路どのようなものですか。

A3: 日本のODAでは10トンの車しか通れないのに20トンのブルドーザーを入札するような失敗をすることがあります。経験の豊かなコンサルタント、技術者が関与すると道路がないのに大きな荷物を選定したり、電圧の違いを加味しなかったという間違いはおかしません。ブータンには例えば使用状況に合わないアスファルト散布機の例の様によく間違っただけで機械が入ってきました。大きな機械をバラバラにして山の上へ運んだこともあります。色々問題を想定して解決するのがベテランと思います。

(平田)

